

7. 高規格道路ネットワークをいかした圏域づくり

研究会でテーマとした、「高規格道路ネットワークをいかした圏域づくり」に係る、圏域8の字ルート整備後の影響分析、目標、取組、方向性等について、以下のイメージ図に概要を取りまとめました。



高規格道路ネットワークをいかした圏域づくり ～目標としていく社会像の具体的なイメージと実現に向けた3つのチャレンジ～

縮まる時間へのチャレンジ

- 企業誘致の活性化と多様な仕事の創出
- 周遊観光プランの造成と受入れ環境の充実
- 救急搬送、災害対応の連携強化による安全・安心の拡充

深まる交流へのチャレンジ

- 圏域住民を巻き込んだ、整備推進に向けた機運醸成
- 圏域内の情報共有による一体感の創出
- 圏域へのふるさと愛の醸成による次世代の人材育成
- 情報インフラの共有化による行政サービスの効率化

広がる未来へのチャレンジ

- 若者の地元定着を促進する学びの場の創出
- 新たな生活様式に対応した移住定住の推進
- 港湾・空港を活用した国内外における交流促進
- 地域資源の磨き上げによる圏域ポテンシャルの向上
- 地域交通の点検による新たな生活スタイルの検討

目標としていく社会像の具体的なイメージ

- 人々が豊かな生活を実感できる
- ワークライフバランスが充実する
- 観光地をじっくり巡れる
- 災害に強いまちになる
- 様々な地域で交流が生まれる
- 圏域の色々な施設が自由に使える
- 交流人口が拡大する
- 空港・港湾・駅に新たな賑わいが生まれる
- グリーン社会が実現する
- 希望の就職、転職ができる
- 地産地消、食料自給が進む
- 多くの観光客を目にするようになる
- 様々な自然や文化を体験できる
- 観光客にとって「第二のふるさと」になる
- 大きなスポーツ大会やイベントが身近になる
- 新たなビジネスが始まる
- 柔軟な働き方が可能となる
- 東アジアのゲートウェイ機能が充実する

高規格道路のネットワークは、地方の発展の可能性を大きく向上

高規格道路は、複数の市町村に連なり整備され、その整備効果をさらに高めていこうとしたときは、広域連携による取組がより有効であり、圏域はその土台がある

高規格道路の整備は多くの場合が長い年月が必要

整備後の社会像を圏域住民と共有し、まちづくりを進めていくことで、高規格道路整備による様々な効果を十分にまちづくりに活用可能

これまで紡いだ絆をもとに、新たなつながりを創出し

水と緑がつながる 人がつながる 神話の国から未来につなげる
～あたかも一つのまち 住みたくなる中海・宍道湖・大山圏域～

の実現をめざします